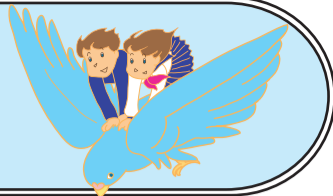


君とつばさ



平成25年10月1日
 発行・公益財団法人 交通遺児育英会
 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-1
 (電話) 03(3556)0771
 (HP) http://www.kotsuji.com

©交通遺児育英会

新装つどいに 66家族130人

和やかに交流の輪

25年度の「高校奨学生と保護者のつどい」が、8月24、25の両日、都内のホテルで開かれ、全国から66家族130人が参加した。会場を千葉県から都心近くに移して装いを一新した今年は、参加家族が昨年のほぼ2倍に拡大、和やかな交流の輪もさらに広がった。講演、懇談、夕食会のほか、昨年まで地方開催だった「相談会」も同時に実施。自由行動の2日目は、28家族56人が心熟東京寮を見学した。

開会のあいさつで石橋 健一専務理事は、「高奨生は、育英会がたくさんの人に支えられていることを頭の片隅に入れておいてほしい」と述べ、育英会の成り立ちと現状を紹介した。

講演では、3人目に保きに行けなかった」と、困難だった当時の生活を説明。会津地方の茅葺き集落保存に熱心だった夫の遺志を継ぎ、山里で茅葺き屋根の民宿を営む決心をしたと述べた。

その上で、冬の雪降ろ

(関連記事2面)



五十嵐さんの講演に聴き入る参加者(上)

グループ別に体験談などを語り合う保護者(右上)と奨学生(右下)たち



しを、帰郷する息子が手伝ってくれたり、茅葺きの維持をNPO団体が支援してくれたりすることを紹介して、「前に向かっって歩く努力をすれば、きつと助けてくれる仲間もいる」と、聴き入る保護者たちを励ました。

「つどい」後半は、保護者、高校生が15グループに分かれて懇談。

保護者グループでは、家族を亡くした体験やその後の生活の苦勞、子どもの進路選択の悩み、奨学金の返還の不安などを語り、同じ境遇にある苦勞を分かち合った。

高校生グループでは、

奨学生募集中

学校生活や進路の悩み、仲間との付き合いや部活動の様子を紹介し合っていた。

締めくくりの夕食会では、海外語学研修で知り合った高校生同士や、懇談会で打ち解けた保護者が、それぞれ食事を取りながら、席を移して談笑

の輪を広げた。2日目は自由行動。都内の大学に進学することを考えている家族は、心熟見学に参加した。

今年も、心熟の寮生16人がサポーター役として加わり、道を案内したり、懇談の進行を支えたりして、運営に協力した。



地元大学見学ツアーの研修生たち

語学研修生、米豪から帰国

アメリカ、オーストラリアへの海外語学研修に参加した高校生32人が8月中下旬、研修先から日程通り帰国した。

語学研修10回目となる今年、研修先として初めて米国が選ばれ、英検3級取得や受験予定などの条件をクリアした29人が参加。カリフォルニア州サン・ホアン・カピストラーノで、3週間ホームステイして英語を学び、ホストファミリーや同世

代の現地の学生らと交流を重ねた。

帰国後、研修生は育英会に報告書を提出した。「私の英語を分かってくれる人がいる!」と、

「風」



アクリル・紙

多摩美術大学 3年

松原 智子

初めての英会話体験の面白さを記す報告や、逆に「私たちが普段使っている発音では全く通じなかったことが、ショック」と、苦戦ぶりを語った文もあった。

また、「米国人は、知らない人でもあいさつや立ち話をし、たくさんハグしてくれた」と、異文化体験を伝える参加者や、「英語への興味がさらに強くなり、国際関係の大学に進学することを決めた」と、充実した研修だったことを報告する研修生もいた。

さらに、研修生を作文だけで選抜するのは不適切との改善提案や、訪問先の家庭の情報を事前に知りたいといった要望もあった。(関連記事3面)

相談会も開催、6家族参加

「つどい」の新たなプログラムに加わった「相談会」が、会場の一角で行われ、6家族11人が参加した。

寮、進学、進学後の奨学金など、共通する悩みや問題について、まずグループ相談が行われ、その後、希望者に対して個

別相談も行われた。相談者からは、「進学先を決めきれないで悩んでいる」「他の奨学金と同時に育英会奨学金を借りられるか」などの相談が寄せられ、育英会側から、「1年生といえ、自分の進む道を真剣に考える時期」「他の奨

学金を借りていても、育英会は貸与する」となど、どと回答。相談会は、夜遅くまで続けられた。

相談会は、昨年まで都道府県単位で行われていたが、今年から、「つどい」の全国一斉開催に合わせて行われることになった。

企画記事の掲載面が一部変わります

高校生の声	2面に
夢の扉—私の学び舎	3面に
燃えろ青春—一部活動拜見	5面に
あしながおじさんの広場	6面に

4面の「わか道」「先輩お元気ですか」、5面の「お母さんただいま奮闘中」は従来通りです。

このころ

不釣り合いなほど豪華な施設に目を奪われることもあるが、土地の歴史や民俗を伝える資料館を訪ねるのも、旅の楽しみ▼衝撃の強さからいって、広島平和記念資料館や長崎原爆資料館は別格だ。いくら立派にしてもまだ足りないと思わせる。展示とは別に、外国人見学者が食い入るよう見つめる姿には、とりわけ驚かされる▼毎月2億人が閲覧する米国のロコミサイトで、「外国人に人気の日本の観光スポット」として広島資料館が2年続けて1位になった—という報道もうなずける▼二つの資料館に比べると地味だが、沖縄のひめゆり平和祈念資料館も、心に焼きつく。生存者の証言をつづった新聞紙大ほどの本が、無数に並ぶ。ページの大きさはなく、一言、一行の重みが、ページを繰る手を重くさせる▼広島も、長崎も、ひめゆりも、外国人に交じって、中高生が1度は訪れるようにしたいのも思う▼東京五輪が開かれるころ、「3・11資料館」はできているだろうか。それとも、「歴史」にまともな生きた生きたが、なお東北を覆っているだろうか。

本紙は、宝くじの社会貢献広報事業として

助成を受け作成されたものです。



交通安全運動 育英会が協賛

福岡市イベントに参加

交通安全運動育英会は、7月に全国交通安全運動協賛団体に指定された。これを受けて育英会は、協賛活動の一環として、

秋の交通安全運動を控えた8月、福岡市など主催のイベント「飲酒運転ゼロを誓う、市民の集い2013」に参加。会場では交通事故の悲惨さを訴えるとともに、交通安全への支援を呼びかけた。

また、育英会ホームページに安全運動ポスターを掲載したほか、10月以降に、心塾東京寮の塾生による高校での講演も予定している。

奨学生の借用証書印紙税

非課税化強く訴え

育英会事務局長が寄稿

奨学生が借用証書に課される印紙税を負担していることについて、交通遺児育英会の市村智一事務局長が、月刊誌『公益法人』9月号に非課税化を求める論考を寄稿した。現在、奨学生は育英会

からの貸与額に応じて、印紙税法で求められる印紙税を負担している。大半の奨学生は、貸与額が100〜500万円以下で、印紙税負担は2千円だが、医学部、薬学部などで学ぶ奨学生は、課税額は500〜1000万円以下になり、課税額が1万円を超える場合もある。

これに対し、同事務局長は、①奨学金は無利子貸与で、一般の商業ベースの貸借とは異なり、課税はなじまない②日本学生支援機構や自動車事故対策機構の借用証書は、非課税になっている。奨学金を貸与する団体の組織形態の違いから、育英会奨学生だけ課税されるのは不公平③育英会が発行する領収書は、同じ印紙税法で非課税になっているのに、借用証書に課税されるのは矛盾する

——などと、非課税化を強く求めている。また、同事務局長は、公立高校の授業料無償化と私立高校生への就学支援助金のほか、給付型奨学金が新たに導入される方向になっていることなどを挙げて、教育環境が、修学コスト削減に向かっていると指摘。

奨学生にとっては、借用証書課税は修学コストの一部であり、課税を続けるのは時代に逆行すると述べている。

講演会

悩み、痛み、共感



中村豪志さん

最初に登場した心塾東京寮の早大2年中村豪志さんは、中学3年の時、父とけんかして「こんな家に生まれなければよかった」と言ってしまった翌日、父が事故で亡くなったと述べた。

周囲に心を閉ざすようになった高校時代、受験失敗を経て、「浪人して初めて、自分が何をしたいか本気で考え」、志望を理系から文系に変えて再挑戦、大学入学を果たしたと述べた。

その上で、「人にやさしくなれる」自分を再発見して大学で福祉に興味を持ち、ボランティア活動に取り組んでいることを紹介した。

続いて、小学1年で父を亡くし、心塾を卒業して小学校教師になった塩川康臣さん、心塾の大学生・中村豪志さんも講演、遺児家庭の悩みなどを語った。講演は、同じ境遇にある高奨生や保護者の共感を呼び、「勇気づけられた」との声も聞かれた。



28家族56人が心塾見学

「つどい」参加者のうち希望者28家族56人が、2日目に東京・日野市の心塾東京寮を見学した。二見学は、職員から、塾生の生活や規則、講座の様子などについて詳しく説明を受けた後、2班に分かれて居室とホールや浴室などの共同施設を見て回った。

女子と保護者は女子寮内も見学。すでに入塾を予定している参加者もいて、来春からの新生活を思い描いていた。

「つどい」参加者のうち希望者28家族56人が、2日目に東京・日野市の心塾東京寮を見学した。二見学は、職員から、塾生の生活や規則、講座の様子などについて詳しく説明を受けた後、2班に分かれて居室とホールや浴室などの共同施設を見て回った。

女子と保護者は女子寮内も見学。すでに入塾を予定している参加者もいて、来春からの新生活を思い描いていた。

「つどい」参加者のうち希望者28家族56人が、2日目に東京・日野市の心塾東京寮を見学した。二見学は、職員から、塾生の生活や規則、講座の様子などについて詳しく説明を受けた後、2班に分かれて居室とホールや浴室などの共同施設を見て回った。



五十嵐恵子さん

8月の「高校奨学生と保護者のつどい」では、保護者の民宿経営・五十嵐恵子さんのほか、元奨学生の小学校教諭・塩川康臣さん、心塾の大学生・中村豪志さんも講演、遺児家庭の悩みなどを語った。講演は、同じ境遇にある高奨生や保護者の共感を呼び、「勇気づけられた」との声も聞かれた。

その上で、「人にやさしくなれる」自分を再発見して大学で福祉に興味を持ち、ボランティア活動に取り組んでいることを紹介した。

続いて、小学1年で父を亡くし、心塾を卒業して小学校教師になった塩川康臣さん、心塾の大学生・中村豪志さんも講演、遺児家庭の悩みなどを語った。講演は、同じ境遇にある高奨生や保護者の共感を呼び、「勇気づけられた」との声も聞かれた。

「つどい」全体について、「よかった」と答えた。路で悩む姿が子どもの参

考になったと思う」「力強さを感じ、勇気づけられた」(保護者)などの感想が目立った。

また、心塾に関する情報や、高校生活、保護者が共通して指摘していた。

「つどい」の講演の様子や、9月3日付紙面で、育英会事業などとも紹介された。

「つどい」の講演の様子や、9月3日付紙面で、育英会事業などとも紹介された。

「つどい」の講演の様子や、9月3日付紙面で、育英会事業などとも紹介された。

「つどい」の講演の様子や、9月3日付紙面で、育英会事業などとも紹介された。

つどい

高校生・保護者 語り合いの夏休み

「つどい」全体について、「よかった」と答えた。路で悩む姿が子どもの参

考になったと思う」「力強さを感じ、勇気づけられた」(保護者)などの感想が目立った。

また、心塾に関する情報や、高校生活、保護者が共通して指摘していた。

「つどい」の講演の様子や、9月3日付紙面で、育英会事業などとも紹介された。

「つどい」の講演の様子や、9月3日付紙面で、育英会事業などとも紹介された。

「つどい」の講演の様子や、9月3日付紙面で、育英会事業などとも紹介された。

高校生の声

母と兄が自慢

岡山県 岸本 圭織

私の家族は、母と2歳の兄と私の3人です。父は、私が生まれてからいなくなりました。母は、私が生まれてからいなくなりました。母は、私が生まれてからいなくなりました。

ピアノと習字もつと上手に

福井県 平野 椿乃

私は、ピアノと習字を習っています。習字は10年目になり、もうとと上手になりました。ピアノも、毎日練習しています。

亡き父の分まで 野球バカ続ける

大阪府 古樫 力

僕は、今高校2年生です。父は、今高校2年生です。父は、今高校2年生です。父は、今高校2年生です。

自動車が自慢

「つどい」の講演の様子や、9月3日付紙面で、育英会事業などとも紹介された。

「つどい」の講演の様子や、9月3日付紙面で、育英会事業などとも紹介された。

かっこいい！

母と兄が自慢

私の家族は、母と2歳の兄と私の3人です。父は、私が生まれてからいなくなりました。母は、私が生まれてからいなくなりました。母は、私が生まれてからいなくなりました。

海外語学研修

高校生 アメリカ文化体験の旅

この夏、米豪両国へ語学研修に派遣された高奨生32人は、勉強に遊びに旅行に、かけがえのない異文化体験を楽しんだ。研修生報告書の一部を紹介する。
(敬称略、写真と文は米国研修から)



▲地元学校で授業開始

キラキラ輝く国民
稲福 李

「米国のイメージは、太っている人が多い」「人種差別が激しそう」など、ネガティブなもの

先週のサン・ホアン・カピストラーノ近郊をハイキング



だったが、実際に行ってみると、きれいに裏切られた。太っている人が多いのは確かだが、気にせず、おいしいものを食べている米国人は、キラキラしてかっこよかった。国際色豊かな環境で暮らしているからこそ、たくさんの人を受け入れるハートを持っていて、私たちも現地の人のように溶け込むことができた」(沖縄県 大げさリアクション 橋野 由香里)



誇りを持ってサヨナラ

「私は大学で国際関係を学び、その後、留学したいと思う。今回のホームステイで、本当はもっと英語が上手になるように努力する」(岩手県 岩手県)

「米国で一番びっくりしたのは、すべてが50センチ。2人ぐらいいれそうなお腹、一杯でお腹いっぱいになりそうなお腹、そして会話でのリアクション。日本との文化の違いを肌で感じる事ができた」(奈良県 佐久川 愛香)

「日本と違う文化、価値観を知り、米国の良い所、逆に日本の良い所も感じる事ができた。言葉があるから意思疎通ができるのではなく、相手の気持ちを理解しようと努力すれば、うまくコミュニケーションできることを、改めて知ることができた」(沖縄県)

私の学び舎 夢の扉

近畿大学 農学部水産学科 4年
西村 知代 さん



田辺湾に設けられた実験場のいけすで、仲間の助けを借りてヒラマサを淡水に移す西村さん(左端)



マダイとタコの精密画

らない。《魚好きで、単身赴任先の家で飼っていた魚を世話するため、里帰り中でも、時々家に戻ったほど》と、母から聞

くの水辺で小さなへびを捕えた。体長20センチほどのヒバカリ。母に知らせず持ち帰った。「怒られました。すぐ放せ、と。でも、大きくなるまで育ててみたくて、粘って1週間は飼いました」

◇そぼろ丼◇

母一人子一人で育ち、家を空けたのは初めて。寮暮らしで寂しさ、孤独感をたっぷり味わった。体調を崩して自宅で療養中の母も気がかり。だから、月1回はバスに3時間揺られて里帰りの。帰宅すると、何も言わなくても、そぼろ丼が卓に。「真ん中にそぼろで魚が描かれ、周りも、卵、ピーマン、ニンジンで彩られて、きれいでおいしい」と、極上のお店の味をかみしめる。寮では、仲間の学生がよく岸壁で魚を釣り、さばいて供してくれる。タコ、イカ、タイ、アジ、ヒラメなどの刺身をおやつ代わりに味わう。

生き物好き 魚と暮らす



ふっと課業を離れて、絵を描く。時を忘れる。図鑑を頼りに、鉛筆で書き、スクリーントーンを貼っては削る作業を繰り返すと、魚の精密画が仕上がる。

「日本と違う文化、価値観を知り、米国の良い所、逆に日本の良い所も感じる事ができた。言葉があるから意思疎通ができるのではなく、相手の気持ちを理解しようと努力すれば、うまくコミュニケーションできることを、改めて知ることができた」(沖縄県)

「シャック、今、どうしてる？」
京都の実家で飼っているベッコウが気になって、時々電話で母に尋ねる。近畿大学農学部水産学科4年生の西村知代さん(21)は、この春、自宅通学できる奈良キャンパスから、和歌山県白浜町の同大水産研究所の寮に移った。今は母・佳子さん(47)にシャックの世話をお願いしている。
「ウナギです。高校進学祝いに、親戚から贈られた3匹うちの1匹。あごがしゃくれているので、シヤック」
紀伊半島には研究所の実験場が点在する。西村さんはその一つ白浜で、卒論研究のため、いけすにヒラマサ300匹を飼っている。8月に700匹を放したが、実験のサンプルとして採ったり、死んでしまったり。

◇へび、カエル◇
ヒラマサに寄生虫が付くと、体が曲がる側湾症に感染する。「いつ、どこで感染するのか調べて予防に役立てるのが卒論のテーマなので、朝と夕に餌を与えたり、一時的に淡水に移して寄生虫を除いたり、世話をすることが課業です」

進学する時、クロマグロの完全養殖で世界に名をはせた近大しか眼中になかった。が、入学してからは、現場の仕事を体験できるのが何よりいい。自分も自宅近くの川で魚を採ったり、昆虫やへびやカエルを飼ったりして生き物に親しんだ。入学してすぐ、大学近

くの水辺で小さなへびを捕えた。体長20センチほどのヒバカリ。母に知らせず持ち帰った。「怒られました。すぐ放せ、と。でも、大きくなるまで育ててみたくて、粘って1週間は飼いました」

東西心塾で夏休みイベント

心塾東京寮と関西寮で8月、それぞれ夏休みイベントが行われ、両寮の塾生36人が猛暑を乗り越えて親睦を深めた。

関西寮では、日本全国が記録的猛暑に見舞われた10日、JR京都駅に11人が集合。グループに分かれて、家族旅行、修学旅行などをテーマに観光コースを計画、旅先を証明する写真を撮りながら

散策した。清水寺で締めくくり、全員が持ち寄った写真を見せ合いながら、最優秀作品を選んだ。京都、大阪を中心に寮が分散している関西寮では、塾生が顔を合わせる機会がないため、塾生同士の交流を望む声が強かく、この日のツアーが初の試み。塾生からは「来年も続けたい」との声が相次いだ。



▲東京寮 キャンプの朝食



資関西寮 京都を観光



関真佳さん(20)

下関文化産業専門学校

ファッションデザイン学科2年

「ものを作るのが好きで、小学生のころから、手芸で小物をよく作っていました。高校で進路を決める時、自分が何をしたいのか、好きで続けられることは何かと考えた時、幼いころから続いている手芸を思い返して決めました」

「海峽祭と言って、全員が制作とモデルの両方

赤いリンゴの柄です。たったりするが大変でした、丈が短いのでショーした。私のサイズなので、ことも考えると、実家なら安心だし、お金も貯めたいし。お金があつて機会があれば、ずっと先の将来、自分の店を開くのも夢です」

「勉強を離れて、夢中になれることは。一人旅。春に九州を一周しました。母も旅行好きなので反対されませんでした。美術館にふらふら入ったり、母と一緒にクラシックのコンサートに行ったりします。モーツアルトのピアノ曲がとくに好きですね。家では、小物作りで過ごすことが多いです」

一人旅、美術館、音楽会…



制作中のスーツ(右)と昨年発表した白のドレス

「進路説明会で、この学校の洋裁(部門)が、山口県の技能五輪で10年以上も連続して金賞を取るなど、実績があると聞きました。それに、ここは少人数制なので、集中して取り組めると思いました。私は、(瀬戸内海の)小島育ちで、小学校は少人数でしたし、中学校、高校も生徒が少なかった

ので、少人数の方が慣れています」

「モデルを務めたのは初めてですか。はい。入学前は、服を作ることだけ考えていたのですが、作品を発表するの大切だとわかったので、いい体験でした。

「そろそろ、卒業後のことも考えなければなりませんね。就職試験を受ける会の夢を包む。」

「洋服作りが好き」だから、2時間近くかかる通学も気にならない。きやうりばみゅばみゅさんの歌が「かわいい」と思ったら、ファッションはもっとかわいいかった。今のマイカラーは「青」。

「文化祭のファッションショーで、作品を発表するそうですね。」

「ファッションデザイン学科2年

「ファッションデザイン学科2年

「ファッションデザイン学科2年

「ファッションデザイン学科2年

わが道

インタビュー

山口県下関市に1993年、和洋裁女学院として開校。関谷慶子校長。ファッションデザイン、縫製大会の金賞常連校。全国大会、世界大会出場実績を誇る。

下関文化産業専門学校

刑事の安息、愛児と戯れる日々

白バイを操って、故郷の信州路を疾駆する。夢だった。ナナハン(750CCバイク)にも乗れる大型バイク免許を取ったことを、上司に報告した時、思いもかけず刑事の道を打診された。

父・登さんは、同県警交通機動隊の白バイ隊員だった。実穂さんが2歳の時、勤務中に事故で殉職した(享年28)。

父の影 ■ 交番から刑事へ、異動を知った仲間からは「バイクは趣味で乗れ」と声がかかる。「どうしても乗りたい」伊藤さんは、その通りにした。ナナハンを買って、実家のある安曇野の山道を走り回った。実穂の記憶すらない父の影を追って。

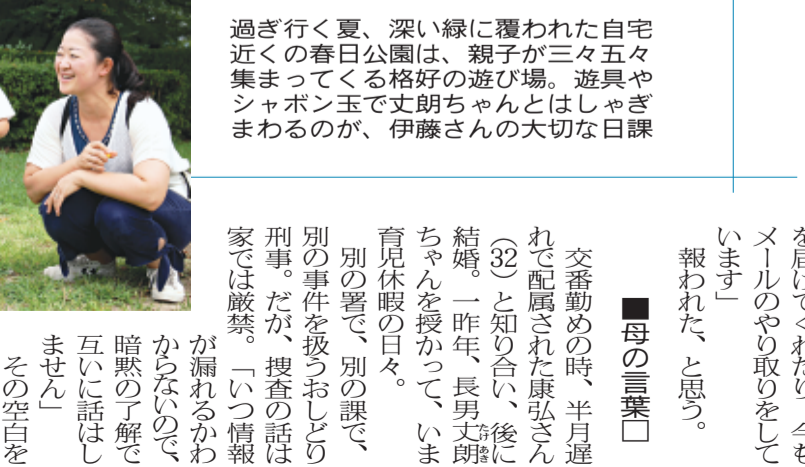
高校、大学で、農業を学んだ。が、その本当の動機は、小学5年から続けてきた剣道だった。隣の中学の剣道部キャプテンが強くかっこいい。その選手が農業高校に進んだことを知り、二緒

に稽古したい」と後を追った。大学も、剣道部先。卒業後、非常勤職員を生活安全課。刑事の第1歩を踏み出す。少年事を居けてくれたり。今もメールのやり取りをしています」

報われた、と思う。交番勤めの時、半月遅れで配属された康弘さん(32)と知り合い、後に結婚。一昨年、長男丈朗ちゃんを授かって、いま育児休暇の日々。別の署で、別の課で、別の事件を扱うおしどり刑事。だが、捜査の話は家では厳禁。「いつ情報が漏れるかわからないので、暗黙の了解で互いに話しません」

母の言葉 ■ 交番勤めの時、半月遅れで配属された康弘さん(32)と知り合い、後に結婚。一昨年、長男丈朗ちゃんを授かって、いま育児休暇の日々。別の署で、別の課で、別の事件を扱うおしどり刑事。だが、捜査の話は家では厳禁。「いつ情報が漏れるかわからないので、暗黙の了解で互いに話しません」

その空白を丈朗ちゃんが元気な声で埋めてくれる。言葉を感じ、歩き始め、もうすぐ自分が父を亡くした年と同じ2歳になる。格別の思い。警察官になった時、母・潤子さん(57)は、喜びながらも、「もう覚悟しているから」と、夫の言葉を口にした。来年3月には、職場復帰する。母の言葉を噛みしめ、ママの笑顔で刑事の強面に変えて。



先輩 お元気ですか

長野県警駒ヶ根署生活安全刑事課 巡查

伊藤 実穂 さん



1981年、長野県生まれ。99年、同県立南安曇農業高校を卒業し、宇都宮大学農学部に入学。2003年、同大卒業後、長野県警純非常勤職員を経て、05年、同県警巡查。長野中央署、中野署、県警子ども・女性安全対策室勤務の後、10年から現職。現在、育児休業中。

経て、念願の警察官になった。剣道が柔道か、武道を選ばなければならなかった時、柔道を選んで上司から諭された。当然、剣道だろう。と。三段に上っていた。県警の大会で、図らずも優勝をさらってしまったことも。警察学校で、初めて拳銃を手にした。ずしりと重い。「撃つと、衝撃がものすごい。怖いと思いましたが。交番勤めの時、拳銃を気にかけていた」と振り返る。

孤独のレース 寡黙な攻め

燃える青春

部活動挿見

額、首、腕に、大粒の汗が浮き上がる。顔がゆがむ。しかし、選手たちは、黙々と野山を駆け上がっては下りる。深い緑に包まれた北海道の原野に聞こえるのは、飛び回るバツの羽音と、走者の荒い息遣いだけ。

◆真逆の走法◆

クロスカントリイは、スタートすると独りつき。「競技の性格上、選手は皆、寡黙ですよ」と顧問の石川英樹教諭。部員11人なのに、走者は20人。盛岡南高校との

合同合宿だった。「なまらこも、凄いな」との文字がまぶしいTシャツに混じって、選手の背には「絆」の文字も。菊地君は、幼稚園の時からスキーに親しんだ。小学生になって、「体が

細くて弱かったので、母（雅子さん）が何かスポーツをというので」クロスカントリイスキーを始め。小、中学では、道内の試合では「だいたい3位以内に入っていた」ほどの実力の持ち主。が、全国屈指の強豪校



旭川大学高校 クロスカントリイスキー部 2年 菊地 空君



山野を走り続けるランニングやローラースキーを装着しての滑走を繰り返す夏季合宿（北海道幌加内町・朱鞠内湖で）

に進学して走法の違いに戸惑った。石川教諭の教えに従い、「体力や力ではなく、力が逃げないように、前に進む力に変える走法」を試みる。「でも、頭で理解できても、なかなかその通りに体が動かない。これまでは、真逆だ」と言われて、少しは体で感じて



盛岡南高選手の背には「絆」

夏の間、よく釣りに出かける。自宅近くの清水川でウケイやヤマメを釣って、競技や勉強を忘れる。

◆トップ10◆

試合では、走法の違う10名、15名を走る。コースを下見して、レースプランを練る。「最初、（スピードを）上げようか、始め抑えて後半上げようか、レースで辛い時、ここで他の選手は手を抜くだろうけど、自分はこの攻めてみようか、緩めるとタイムが落ちる、などと考

えています。作戦通りに走って、結果が出た時が一番うれしい」。レースは、3年生まで一斉に走る。昨冬、道大会で13位、全国ランキンク36位だった。全国2連覇のリーダーチームに加わるのも至難だが、今年はいんターハイで個人10位以内に入る」と、迷わず目標を定めた。

お母さん

ただいま奮闘中



横堀 礼子 さん
パン屋店員
(前橋市)

「雪かあ……」前橋市のパン屋「欧風パン グランボワ」に勤める横堀礼子さん（46）は、夫の信一さん（享年39）が、車で出勤する時に残した、ため息交りの言葉を、今も鮮明に覚えている。

訂正 7月15日付5面の「お母さん」は、お父さんが行かなければならない行事は終わっているから心配ないよ」と、なぜか弟を案じてくれて、私はそこまで気が回らなかったのに」

志帆さんがミニバスケットボール、雄一君が少年野球に熱中する年になると、「体が二つ欲しいくらい」フル回転して、送迎を一手にこなした。志帆さんには、「お父さんが、テニスウェアのベストドレッサー賞をもらったことがありますよ。息子が野球、娘がバスケ、私がテニス。息子が『スポーツ家族だね』と評するほど。日焼けして真っ黒になるので、息子と私が昼寝していると、娘に『カブトムシが2匹いる』と言われます」

横堀家は、「自室よりリビングにいる時が一番落ち着く」（志帆さん）と、いつもリビングがにぎわう。

「大丈夫だよ」横堀さんの声が、ひときわ明るく店内に響く。100種類ものパンを並べ、TVや雑誌で紹介される人気店とあって、ひっきりなしに来店する客に手際よく対応する。9年前の開店時から勤めるベテラン店員。レジ、接客が仕事だが、この夏、製造にも携わらせてもらうようになった。



▲最近パンの製造も担うようになった



来春巣立つ志帆さんとガールズトーク

最近、雄一君の言い回しが、理詰めで好きなのとを熱く語る夫に似てきた、と感じる。「遺伝子だろうか」、知らないはずなのに。

志帆さんは、来春、家を出て都内に進学する。就職も都内で、と考えている。もう家に戻らないかもしれない愛娘に、横堀さんが声をかける。「泣いて帰ってきてもいいよ」

店を出ると、赤城山が目前に迫る。もうじき、赤城おろしが吹き始める。風花も舞う。

「大丈夫だよ」横堀さんの声が、ひときわ明るく店内に響く。100種類ものパンを並べ、TVや雑誌で紹介される人気店とあって、ひっきりなしに来店する客に手際よく対応する。9年前の開店時から勤めるベテラン店員。レジ、接客が仕事だが、この夏、製造にも携わらせてもらうようになった。

して、地元はもとより、新潟や長野県に毎冬スキーに出かけた。3の長女志帆さん（18）

横堀さんは、父の死を知らなかった時、高知の時の志帆さんの言葉もよく覚えている。

子育て、勤めの忙しさを縫って、テニスにのめり込む。定休日には、レッスン後も残って練習。日中いっぱいコートを走り、風花も舞う。

店のバゲット、家のグラタン

スポーツ家族むすぶにぎやかリビング

あしながおじさんの広場



【6月】

「あしながおじさん」感謝証カードをありがとうございました。ありがとうございます。私は、若いころ児童養護施設に勤務していたことがきっかけで、入会しました。皆さんの幸せをいつまでも願っています。

(神奈川県横須賀市S・Kさん)

あしながおじさん感謝証をいただきまして、ありがとうございます。何も取り柄のない私は、今まで生きてきた証だと思っ、大切に財布に入れて持っています。

(愛知県瀬戸市Y・Hさん)

教職にあった主人を交通事故で亡くして、20年になりました。わずかで

すが、今年も送金いたします。学生さんから、暑中見舞いや年賀状をいただきます。心苦しくは存じますが、返信を差し上げることができませんので、お送りください。皆さんようにお願いいたします。

【お便り】

ほけんの窓口グループ様
全社を挙げてのご支援
ほけんの窓口グループ様は、社会貢献活動の一環として、交通遺児支援のため育英会にご寄付ください。が本社内で行われました。

暑い日が続きますが、厳しい暑さですが、汗 皆さま、夢に向かって努力

夢に向かって努力さらに

感謝証カードは生きた証

【7月】

高校生になったの感想は？ この一学期で考え

を思い切りかくもの季節だけです。暑さを乗りむつもりで過ごしてください。

天候不順の夏ですので、

遺児にも」と、東北地方の高校野球支援なども行

東京の警察署へ

警視庁管内の下町の警察署に、匿名のあしながおじさんから、毎月現金が送られている。千葉県

募金定期便は、1985年から続いております。数字

お断り ご本人の承諾がある場合、お名前を掲載いたします。お申し出

【8月】

「猛暑」「酷暑」では言い尽くせないほどの、毎日の暑さ。加えて、日本列島のあちこちでの豪雨などによる天災。全く

安穩と暮らせないこのころですが、奨学生の皆さん、若さとフアイトでがんばってください。

ようやく梅雨が明けましたが、ゲリラ豪雨など荒れ模様。お盆・残暑が不安です。

今年はずっと暑い夏です。いつもより体に気をつけてお過ごしください。水分も十分に補給して、熱中症にならないようにしてください。



渡部支部長(62) 真は、「加盟社の思い

は強い」と、台紙が毎年ほぼ完売されていることを喜んでいる。

寄付先は育英会だけだったが、震災後は「震災

5」と番号のみ記されている。

中身はいつも、現金と「交通遺児の為(ため)に！」とだけ書いた便箋が一枚。同署はそれを育英会に送り続けてきた。

担当による、この

は、初回の「1」から欠

お断り ご本人の承諾

ある場合、お名前を掲載

いたします。お申し出

ください。

今年はずっと暑い夏です。

いつもより体に気をつけて

お過ごしください。水分も十分

に補給して、熱中症にならない

ようにしてください。

今年はずっと暑い夏です。

いつもより体に気をつけて

お過ごしください。水分も十分

に補給して、熱中症にならない

ようにしてください。

今年はずっと暑い夏です。

いつもより体に気をつけて

お過ごしください。水分も十分

に補給して、熱中症にならない

ようにしてください。

今年はずっと暑い夏です。

いつもより体に気をつけて

お過ごしください。水分も十分

に補給して、熱中症にならない

ようにしてください。

今年はずっと暑い夏です。

いつもより体に気をつけて

お過ごしください。水分も十分

に補給して、熱中症にならない

ようにしてください。

今年はずっと暑い夏です。

いつもより体に気をつけて

お過ごしください。水分も十分

に補給して、熱中症にならない

ようにしてください。

豊かな街づくりに、
役立つ宝くじ。

宝くじの収益金は、図書館や動物園、学校や公園の整備をはじめ、少子高齢化対策や災害に強い街づくりまで、いろいろなかたちで、みなさまの暮らしに役立てられています。